



◎特別企画

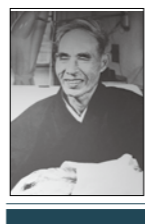
中山義秀が白河に残したもの

# 中山義秀文学賞をめぐる

# 「知」の冒険



□中山義秀文学賞とは？  
地方の自治体が単独で行う希少な「中山義秀文学賞」



「中山義秀文学賞」の誕生は平成5年のことでした。旧大信村では、芥川賞受賞作家・中山義秀を顕彰していくため、中山義秀記念文学館を建設、同時に「中山義秀顕彰会」を設立しました。この顕彰会事業の柱のひとつが文学賞の創設でした。

彼も朋子も、春を待ちあぐねていた。季節の春でない。人生の春を。

「青春の塔」より

そ、現在の文学館と文学賞があるのだと思います」と話しています。歴史・時代小説を対象とした全国的にも希少な文学賞は、すでに16受賞作品を数え、回数を重ねるごとに知名度があがっています。さらに、著名な作家・文芸評論家の選考委員によって、公開選考形式で決定される、他の文学賞にない特徴を有しています。

□芥川賞作家・中山義秀とは？  
社会の軽薄な風潮に迎合することがなかった「中山義秀」



中山義秀とは、いったいどのような人物なのでしょう。義秀は、明治33年大信下小屋に生まれ、幼少期を過ごしました。県立安積中学校（現、安積高校）から早稲田大学英文科に進み、三重県津市・千葉県成田市での英語教師を経て、作家の道を歩きました。

「あのお墓の主は、どんなかたですの」  
「ななに、剣術で人生を棒にふった男さ」

「碑」より

の創作姿勢はその後、野間文芸賞を受賞し、さらには日本芸術院賞を与えられるなどの高い評価を受けました。義秀の魅力について、同文学館の和知正隆館長は、「社会の軽薄な風潮に迎合することのない精神が義秀文学の魅力です。文学館は義秀の素顔に出会える場所。ぜひ、義秀の世界をご覧ください」と話しています。

Episode 長女・山本玲子さんに宛てた手紙が寄贈されました

## 中山義秀の父としてのやさしい一面が見えた

昭和25年の大晦日。義秀が北海道に嫁いだ娘・玲子さんに宛てた手紙にはこう書かれています。

「玲子は子どもが可愛くてたまらないようだが、賢い、よい子どもを育てるのは女の命であり誇りであり何より立派な仕事でもある。来年もまた子どもが生まれるようだが、目出度いことだ。今度も傑作ができるにちがいない」

この愛情あふれる内容の手紙ほか、昭和23年から28年までの9通のはがきを山本玲子さん（東京都世田谷区）が中山義秀記念文学館へ寄贈し、現在貴重な資料として展示されています。

玲子さんは、昭和22年4月に北海道で果樹園を経営する山本克巳さんと結婚。披露宴は神奈川県鎌倉市の文豪・川端康成邸で行われました。義秀は翌年、この結婚を題材に「華燭」を書き、妻に先立たれた父親の娘を嫁がせる葛藤や孤独感を描きました。



△結婚した昭和22年当時の玲子さんと義秀



△玲子さんに宛てた手紙とはがきを展示

## □中山義秀記念文学館



中山義秀を功績を記念し、平成5年4月25日に開館した文学館。全国的にも珍しい文学館で、図書館を併設。地域の学びと交流の場としても機能。

開館時間：午前10時～午後6時（土・日・祝日は午後5時まで）  
休館日：毎週月曜日  
入館料：一般200円  
小中学生100円  
※顕彰会員は入館料無料

芥川賞正賞の時計（中山義秀記念文学館蔵）



「中山義秀文学賞」とは、いったいどのような賞なのでしょうか。また、中山義秀とはいったいどんな作家なのでしょうか。自治体が単独で行なうという全国的にも珍しい、白河が誇るべき文化事業であるにもかかわらず、認知度はまだまだ低いように感じます。

今月号では、「中山義秀文学賞をめぐる「知」の冒険」と題し、中山義秀文学賞を通して、中山義秀の世界を皆さんと一緒に冒険します。

## 第16回中山義秀文学賞作品紹介



上田秀人 著  
立花宗茂

上田秀人著  
「孤闘 立花宗茂」  
中央公論新社

### Story

戦国末期の武勇の誉れ高い武将として東の本多忠勝、西の立花宗茂と称えられた男の物語。女城督の閨千代に婿入りして苦労した前半生と関ヶ原で西軍につき所領没収の憂き目をみた後半生。義を買き、乱世を生き抜いた猛将の知られざる苦悩と相克を描いた希少な作品です。

## 中山義秀文学賞贈呈式・記念講演会



作家・上田秀人氏

1959年大阪府生まれ。大阪医科大学卒。97年小説CLUB新人賞佳作。2001年作家デビュー。主なシリーズに「三田村元八郎」「勘定吟味役異聞」などがある。

受賞者の上田秀人氏の記念講演会が開催されます。

### ＜贈呈式・記念講演会＞

- 日時・会場 2月19日(土)午後2時から／文化センター(中田)
- 参加料 無料

### ＜受賞祝賀交流会＞

- 時間・会場 午後5時から／サンルート白河(新白河駅前)
- 参加料 3,000円

問中山義秀顕彰会 463614